

分担金・拠出金の名称		Gaviワクチンアライアンス拠出金	評価	B
拠出先の国際機関名		Gaviワクチンアライアンス		
国際機関の概要		2000年にスイス（ジュネーブ）のユニセフ内に設立され、2009年にはスイス政府より国際機関地位のスイスの財団として認定された官民パートナーシップ。73か国の開発途上国を対象とし、以下を目標とし、活動を行っている。 ①5価ワクチン（ジフテリア、破傷風、百日咳、B型肝炎、インフルエンザ菌b型（Hib）、黄熱病、麻疹等）のワクチン及び新型ワクチン（肺炎球菌、ロタウイルス）の普及支援、②予防接種普及を効果的に行うための保健システム強化、③国家の予防接種プログラムの予算の安定性及び持続性の向上のための取組（長期的かつ計画的に官民の資金を確保するため、革新的な資金調達メカニズムを含む取組の実施（IFFImやAMC等））、④ワクチン市場への介入（供給・価格の低下等）		
拠出により我が国が期待する成果目標及び活動指標		達成状況		
1.（1）成果目標：Gaviへの拠出を通じた我が国の国際保健課題の遂行の促進及び我が国実施事業との相互補完性の向上。 活動指標：Gaviの活動を通じた我が国重要外交施策への貢献。		・我が国の国際保健政策2011-2015では特にミレニアム開発目標（MDGs）の中でも進捗が遅れているMDG4（乳幼児死亡率の削減）を重視し、「妊産婦と乳幼児死亡率の更なる低下を目指す。」としている。 ・Gaviはこれまで5億人以上に予防接種を行い、700万人の子どもの命を救うなど、MDG4の達成に向けて大きく貢献。予防接種に対する支援は効果的なスケールアップが鍵であり、我が国の二国間支援のみではこれを効果的に実施することは困難。 ・このようにGaviの活動は我が国の政策と合致しており、相互補完的にMDG4の達成に貢献している。		
（2）成果目標：Gaviの効率的な組織マネジメントの確保、効率的・長期安定的な資金運用の確保、意思決定における我が国のプレゼンス。 活動指標：Gaviの組織・財政マネジメント向上努力。		・国際機関ネットワーク（MOPAN）が2012年に実施した評価において、Gaviは、内部監査の設置、事務局による報告頻度の増加、活動マネージメント部門の設立等を通じ、財政・アカウンタビリティの強化に務め、強固なマネジメントを確保しており、また官民が連携する複雑な組織構造にも関わらず、組織の効率性を向上させている点において肯定的に評価されている。 ・Gaviの効率的な運営や成果に焦点を置いた活動を他ドナーも評価し、2015年1月に実施された第2次増資会合（対象期間2016-2020）において、目標値75億ドルを超える拠出の表明がなされた。 ・Gaviは、従来のドナーからの資金調達手段（拠出金）に加えて、ワクチン債（IFFIm）やワクチン事前買い取り制度（AMC）等の革新的資金調達手段を通じて長期に予測可能な資金源を確保する取組を行っている。 ・日本は、Gavi理事長や事務局長（各々年に一回訪日）との協議や、当省幹部によるGavi訪問などの機会を通じ、組織運営に対する提言を行っている。		
（3）成果目標：乳幼児死亡率の取組分野で大きな影響力を有するGaviへの拠出を通じた国際的な議論への我が国意見の反映。 活動指標：Gaviによる国際プレゼンス向上の実績。		・Gaviの取組の有用性は国際的に認識されており、これまでのG7・G8首脳宣言等でも高く評価されている。 （2014年ブリュッセル・サミット：Gaviの活動のインパクトを認識すると共に、2016-2020年の間に更に3億人の子どもにワクチンを届ける取組を歓迎する。2015年：エルマウ・サミット：2020年までに3億人の子どもにワクチンを届けるために75億ドル超を動員したGavi増資会合の成功を歓迎する。 ・国内においてもGaviの活動を評価する国会議員は多く、自民党女性活躍推進本部もGaviとの連携促進を提言している（2015年6月）。 ・我が国のGaviに対する財政的貢献は、ドナー（国・民間）全体による拠出の1%に満たないが（2013年）、理事会やハイレベルの協議等を通じて、Gaviの意思決定に積極的に参加している他、Gavi理事長や事務局長との協議を通じ、日本の政策を発信し、共有に努めている。		
（4）成果目標：我が国の知見、専門性を通じたGaviへの貢献。 活動指標：Gaviにおける邦人職員数の増強。		・日本人職員は1名（総職員数172名）。 ・Gaviの事業に密接に携わっている日系企業は現時点では存在しないが、コールドチェーン等、我が国が強みを持つ分野での連携が今後期待しうる。		
2. PDCAサイクルの確保		①Plan：Gaviは、5か年戦略（現在は2011-2015）を定め4つの戦略目標を設定。 A)ワクチン普及の加速化、B)人材育成、C)予見可能性・安定性の向上、D)ワクチン市場の形成。 ②Do：理事会や各委員会で活動計画を議論。ワクチン支援等を実施。 ③Check：活動を指標により評価。A)5歳未満の子どもの死亡率、B)Gaviの活動によって救われた人の数、C)Gaviの支援により予防接種を受けた子どもの数。 ④Act：理事会や委員会にて、必要に応じて、改善を提言。		
担当課・室名	国際協力局国際保健政策室			